

Beat Holdings Limited

**第17期第2四半期
決算短信説明資料**

東京証券取引所第2部[9399]

ビート・ホールディングス・リミテッド

取締役会議長 CEO

松田 元



Our Mission

現代の社会は、労働と資本の時代から、遊びと信頼の時代へ、人類史においても稀有なパラダイムシフトが起こりつつあります。当社は、世界中で急速にデジタル化が進んでいるという認識のもとで、このデジタル化の新たな時代において、アジアを代表するリーダーとなり人類に寄与できる会社となることを目指す所存です。

新時代においても、万物の原動力には必ず鼓動（Beat：ビート）が宿ります。当社は、この新たな時代を勝ち抜き成功を収めるための組織創りには、正しい鼓動でスタートする必要があると信じております。

事業内容

ライセンス 事業

Crypto Messenger Wallet（以下「CMWT」）およびInouのほか、ブロックチェーン技術ベースの知的財産権等のライセンス



ヘルスケア 事業

ヘルスケア関連の基本プラットフォーム（基本ソフトウェアおよびウェアラブル端末等の開発、ウェルネス・サービス、メディカル情報・データ分析の提供

メッセージング 事業

クラウド・ベースのA2Pメッセージング・サービス及びソフトウェアの製品・サービスの提供



メディア 事業

金融情報・金融関連ニュースやトピックスの提供等





当社の提供価値と強み

暗号資産・ブロックチェーン領域での、圧倒的ナンバーワン企業を目指して

競争力の高いブロックチェーン製品

財布機能付き暗号メッセージング・アプリ“CMWT”、および、誰もが気軽に書き込める地図SNSアプリ“Inou”を開発、今年度、市場に投入済みです。

実際の製品を体験していただきながら、ブロックチェーンがもたらす未来の実感を与える数少ないテクノロジー・カンパニーとして事業展開しています。

米中へのペネトレーション

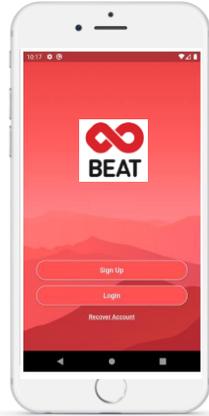
北米カナダ市場の上場会社GINSMS、中国市場で強いブランド力を持つXinhua（新華）Mobile Limitedを傘下に有し、日本内外の複数企業と事業提携を進めています。

加えて、当社の技術的バックグラウンドを効率良く展開し、数少ないグローバル・ブロックチェーンカンパニーとして成長することを目指します。

国内最大級の暗号資産メディア

月間150万PVを誇るCoinOtaku社（以下「CO社」）を新たに傘下に収め、情報浸透力としての価値は勿論、セールスチャネルとして高い拡販力の発揮を狙います。

当社グループの主力2製品との親和性は極めて高く、国内ナンバーワンの暗号資産関連メディアとなること、将来的には当社グループのネットワークを活用し海外展開を目指します。



財布機能付きメッセージングアプリ

Crypto Messenger Wallet (CMWT)

ブロックチェーンによりメッセージが暗号化され、個人情報登録が不要、かつプライバシー性の高いメッセージングアプリです。
個人で発行した通貨（トークン）を格納するのみならず、ユーザー間でやりとりすることにより、独自の経済圏を作ることも可能です。
”遊び”と”労働”が交錯する社会づくりに寄与します。



SNSアプリ



ユーザが地図上に画像や動画付きの記事をプロットすることにより、各ユーザの発見や体験をリアルに交換できるSNSアプリです。ブロックチェーンで管理され、情報の改ざん・なりすましは不可能。また、口コミを行った人、応援する人がトークンをやり取りすることができます。”情報を創る人に報酬を“というブロックチェーンの新しい世界観を表現しています。

01

FY2020 Q2 業績

エグゼクティブサマリー

FY2020 Q2

ハイライト

- ヘルスケア事業セグメントおよびメッセージング事業セグメントの収益性改善。売上高が4,368千米ドル(471百万円)、前年同期比102.1%に。売上総利益率が前年同四半期7.4%→当四半期が20.4%へと改善。
- 営業CFならびにInouのブロックチェーン化とCO社の買収により拡大した投資CFの不足分を、新規の第三者割当増資による財務調達で賄い、保有現預金は直前四半期比微減にとどめた。

FY2020

事業展開

- 昨年度の単体営業利益▲111百万円、同単体当期純利益▲58百万円と赤字が続いていたActivateが持分の低下により連結対象外となる。ヘルスケア事業における業務提携関係は引き続き継続。
- CO社2020/9期の単体営業利益着地見込は174百万円。現在投入しているCMWTとInouとのシナジー効果の発揮は勿論、暗号資産市場の盛り上がりを追い風として、更なる業容拡大と収益力強化を目指す。
- Activateの非連結会社化、CO社の連結子会社化による効果はO3以降に反映され、本年度は各々約半年分が当社連結決算に取り込まれるため、本格的な連結収益改善効果は2021年度となる。
- 従って、来期は、グループ連結ベースの当期純利益および営業CFの黒字化が目標となる。純利益は、当期は▲352百万円で着地予想。FY2018：▲1,774百万円、FY2019:▲894百万円と、ここ2年は、5~7億円ずつ着実に改善。(注)本ページ以降の各計数は、特段の表示ない限り、グループ連結の計数です。

当四半期業績概要

[単位：千米ドル
(百万円)]

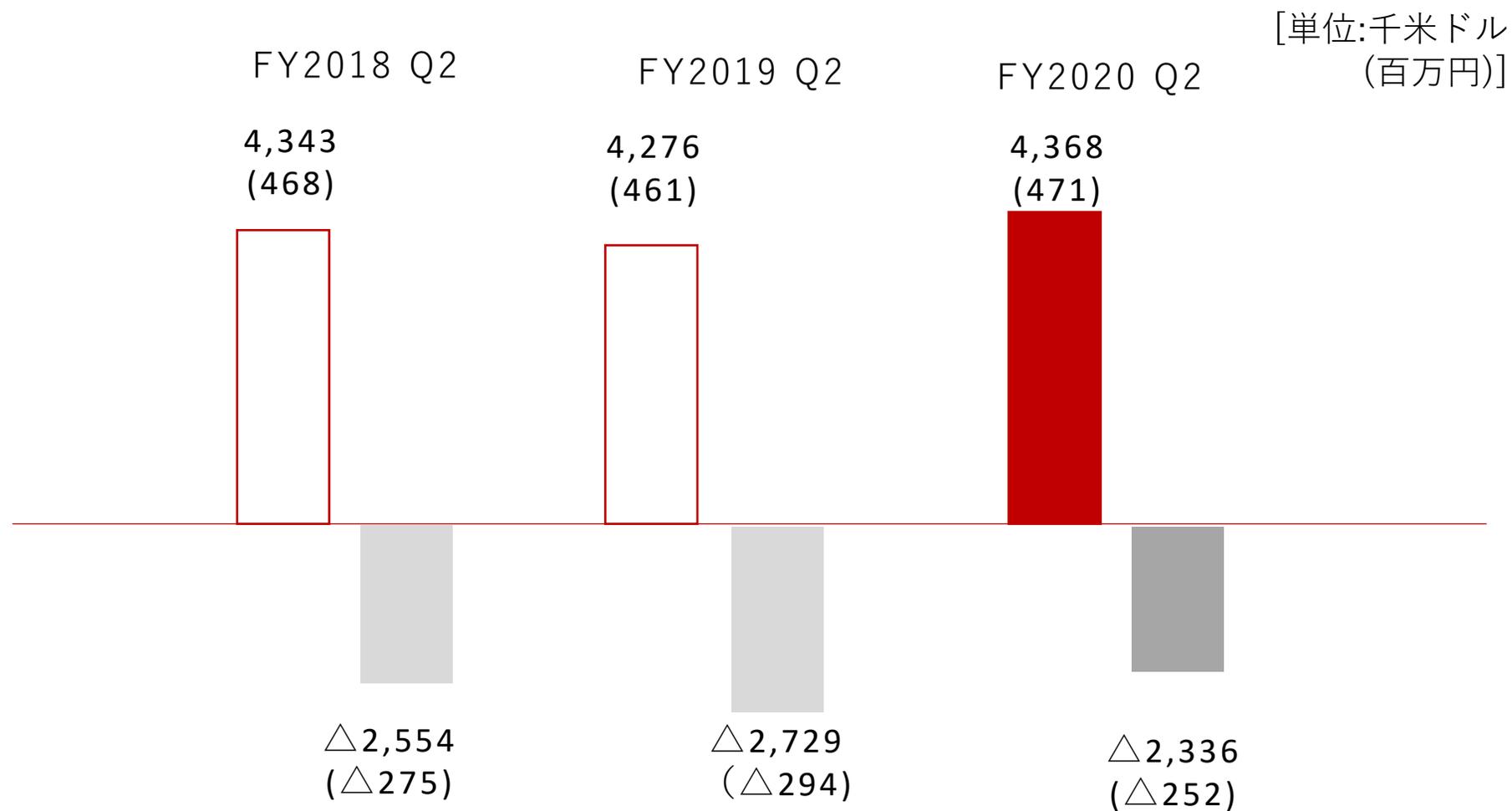
	FY2020 Q2 (当期実績)	FY2019 Q2 (前期実績)	前年同期比
売上高	4,368	4,276	+2.1%
	(471)	(461)	
営業損失	△2,336	△2,729	-
	(△252)	(△294)	
経常利益	△2,133	△2,485	-
	(△230)	(△268)	
親会社株主に帰属す る当期純利益	△2,122	△2,273	-
	(△229)	(△245)	

セグメント別業績

売上総利益率は、前年同四半期が7.4%であったのに対し、当四半期が20.4%。ヘルスケア事業セグメントおよびメッセージング事業セグメントにおいて、売上高、利益率とも従来比では改善。

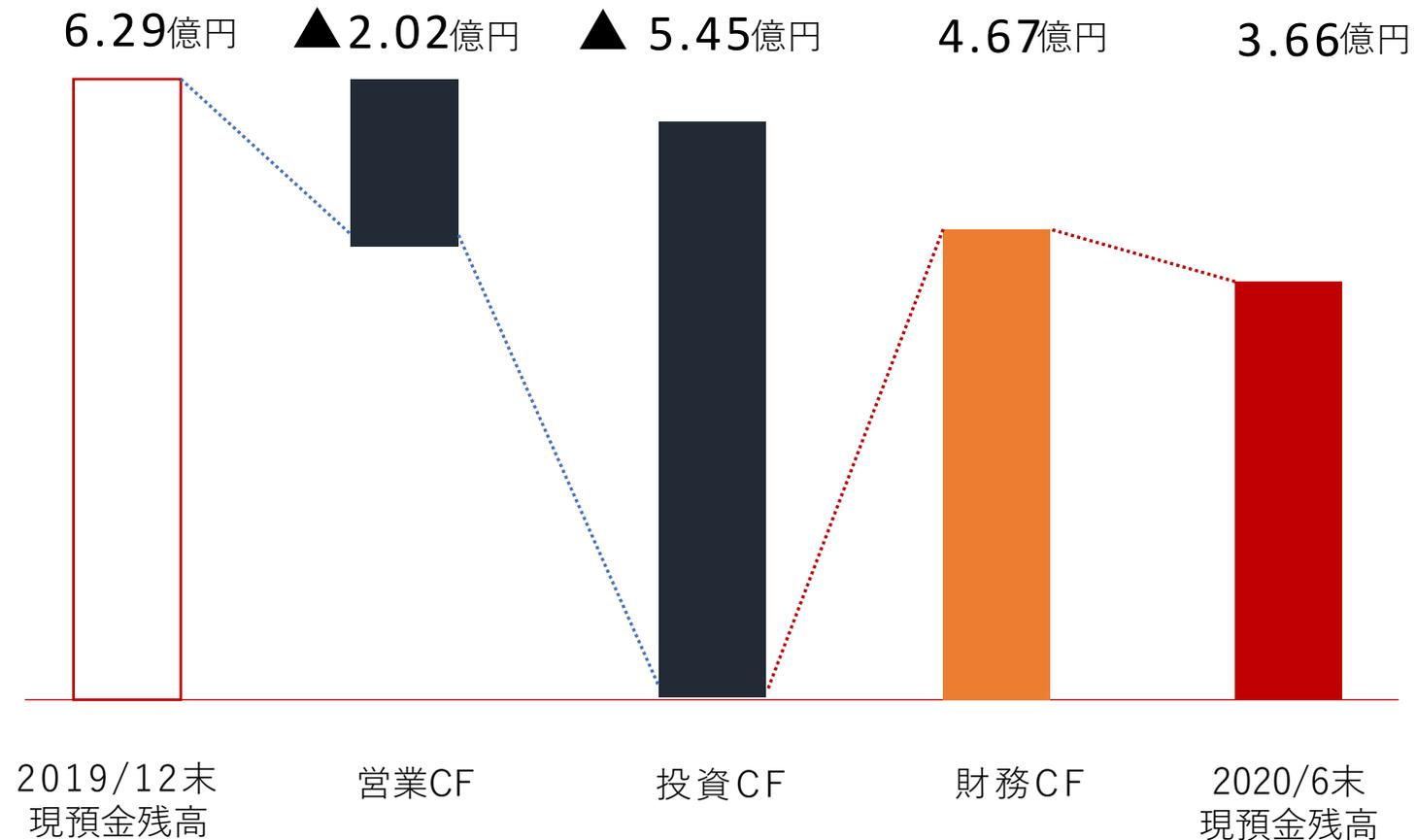
		FY2020 Q2	[単位：千米ドル (百万円)]
ヘルスケア事業	売上高	3,679 (396)	
	売上総利益	805 (87)	
メッセージング事業	売上高	689 (74)	
	売上総利益	84 (9)	
ライセンス事業	売上高	-	
	営業利益	-	
その他事業	売上高	1 (0)	
	営業利益	1 (0)	

四半期売上高・営業利益の推移



期初来キャッシュフローの状況

約5.5億円のInou取得費用を財務調達および現預金取崩しで賄った。来期はCO社の連結取り込みの効果がフルに寄与するため、営業CFの大幅改善が見込まれる。



新型コロナウイルスが当社の業績に与える影響について

新型コロナウイルス（“COVID-19”）による感染症の流行により世界的な景況の落ち込みが予想されるが、現時点においては、将来のCMWTおよびInouの売上高に関し重要な悪影響は存在しない見込み。

02

FY2020方針

FY2020Q3以降の事業プラン

- 2020/6、正式市場投入したCMWTおよびInouは、CMWTの財布機能拡充および両ソフトウェアの一体提供に向けた追加開発を実施。省コスト化のため、マレーシアに自前のソフトウェア開発拠点BEATCHAIN Sdn, Bhd.を設立。
- 連結子会社化したCO社をCMWTおよびInouのライセンス販売の中心として活用するため、両ソフトウェアをXinhua Mobile Limitedから同社あてライセンスアウトした上、マーケティング活動を本格化。CMWTにCO仕様のUIカスタマイズを施した（仮称）”Otakuウォレットとエコシステムの早期立ち上げを図る。また、当社従来リソースとの結合により、CO社収益力のさらなる向上と新たな収益機会の獲得を図る。
- カナダ・トロント上場のGINSMSのアセットも活用しながらCMWT・Inouの拡販を図る。特に、一般社団法人Japan Business Leadership CouncilおよびETA HOLDINGS CO.,LTD.との業務提携により、北米市場への橋頭堡を確保する。このほか、我が国大手メディアの運営するYouTubeチャンネル上へのInouの露出を準備中。
- 直近、主力両ソフトのマーケティング手段と黒字でキャッシュフロー創出可能な事業の取得のため、CO社買収を最優先し、ヘルスケア基幹ソフトの開発が来期に後ずれしているが、本年2月に発表したヘルスケア事業展開の方針については、引き続き堅持。株価上昇～十分な資金調達が可能となれば、再び同事業を前倒しする。

FY2020業績予想

- Activate非連結会社化、CO社連結子会社化の今年度当社連結業績への取り込みが各々半年分にとどまるため、これら効果がフル寄与する2021年12月期の単年度黒字化を視野に捉える。

	2019年12月期 (前期実績)	2020年12月期 (当期予想)	前年同期比
売上高	14,052 (1,514)	10,197 (1,099)	▲27%
営業利益	▲5,783 (▲623)	▲2,568 (▲277)	—
経常利益	▲5,455 (▲588)	▲2,417 (▲260)	—
親会社株主に帰属する当期純利益	▲8,300 (▲894)	▲3,271 (▲352)	—

[単位：千米ドル
(百万円)]

目指す3年後の姿（2020/2発表を微修正）

2020年

- “Crypto Messenger Wallet”、“Inou”の開発完了、CO社をマーケティングの中心に据え、ライセンスアウト本格化
- ヘルスケアエコシステム基礎ソフト開発着手
- 各プロダクトのライセンス供与を中心にコストコンシャスな事業展開

2022年

- Greater Asia・日本を地盤とするユニークなブロックチェーン・ソリューション・カンパニー
- 連結売上高USD35mil、同営業利益USD10milを目指す

2021年

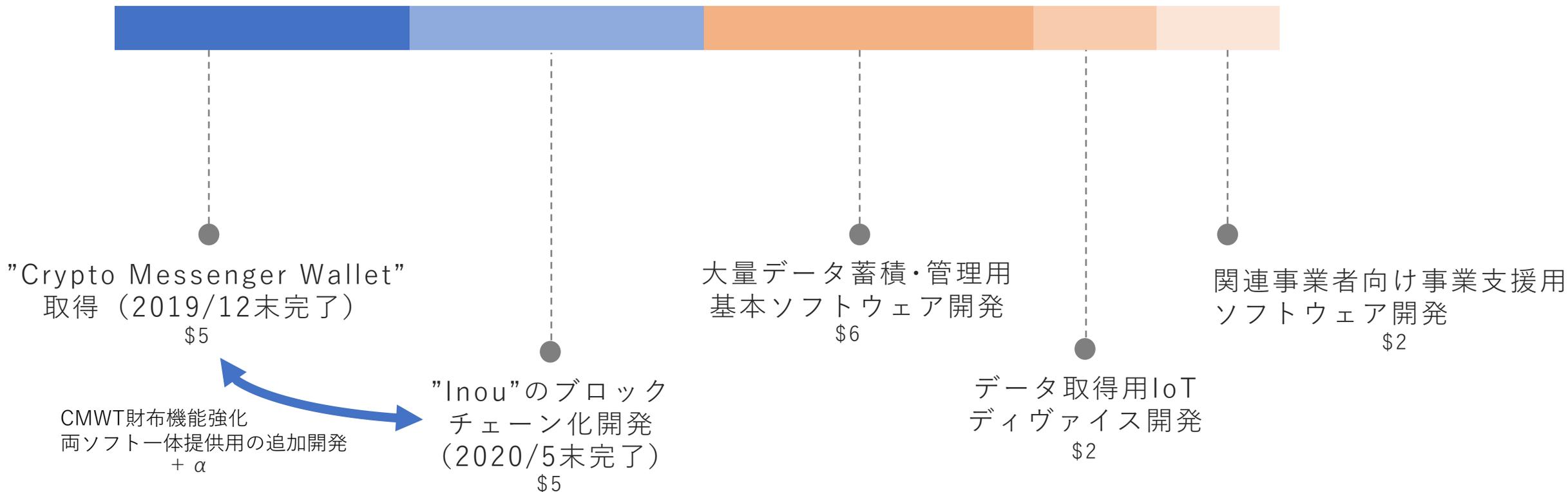
- ヘルスケアエコシステム基礎ソフト開発完了
- 当期利益および営業CFの単年度黒字化

プラットフォーム開発の規模(2020/2発表を微修正)

単位：百万米ドル

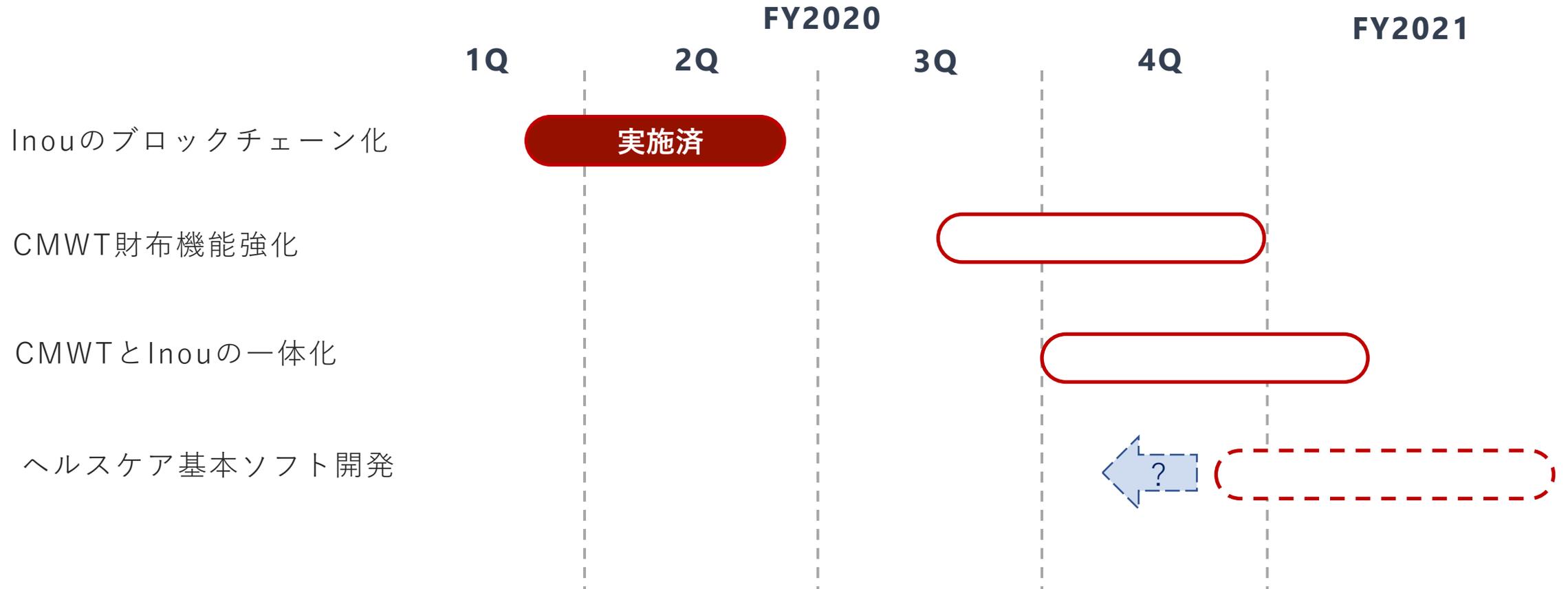
ライセンス事業
(暗号メッセージ事業)
\$10+ α

ヘルスケア事業
(ヘルスケア・ブロックチェーン・エコシステム事業)
\$10+ α



当面の開発スケジュール

マレーシア・ジョホールバルに設立したBEATCHAIN Sdn. Bhd.を活用し、当面は下記を予定。
株価上昇によりワラントによる資金調達額が増加した場合、全体を前倒しで実施。



Beat for the new world order.

